

歩みつつ祈りましょう

飯高 京子

日本友和会は昨年度創立90周年を迎え、記念行事として公開講演会を開催し敗戦後90年にあたり「戦争責任告白」と「平和責任宣言」を公表しました。日本の国は約300年にわたる鎖国の後、天皇を頂点とする明治憲法の下で、ひたすら欧米列強に追いつこうと努めました。国民は天皇のためにいさぎよく参戦し死んでいくことが美德とされました（教育勅語）。第一次世界大戦がはじまった1914年、残虐な殺し合いを止めようと始められた国際友和会の運動に賛同し1926年に創設された日本友和会は、キリストの生涯に示された愛と赦しの精神に倣い、非暴力手段による和解を実現しようと歩み始めました。しかしわが国は、アジア諸国を犠牲にする太平洋戦争に突入、治安維持法下の厳しい弾圧に当時の友和会執行部は屈服し、本会を解散しました。そのような苦い体験を経て、敗戦後に再出発した日本友和会は、戦後71年の現在、再び会員一人ひとりの信仰と信念を試される時を迎えています。

去る5月19日の衆議院法務委員会、戦前の治安維持法より問題のある「共謀罪」法案が强行採決されました。国民の基本的人權、個人の信仰や表現の自由は束縛され得る。しかも政府与党の意にそわない活動を取り締まる定義はあいまいです。すでに沖縄の民意はまったく無視され、抗議する人は見せしめに不法逮捕・勾留されてきました。日本では最高裁長官は内閣が指名し天皇が任命しますので、政府の意向を強く反映する仕組みになっているからです。

しかし、私たちは諦める必要はありません。昨年の12月19日、市民の「平和に生きる権利」が国連総会で多数決により採択されました。この権利はシリア、パレスチナ、南スーダン、沖縄や北朝鮮などで苦しんでいる世界中すべての住民の権利として保証されるべきです。さらに特定の国の人権状況などを調査し公表する国連特別報告者が2名とも最近の「共謀罪」の内容と立法過程の問題を指摘し、改善勧告をしている。国際世論は核兵器廃絶に関しても矛盾した立場のわが国指導者へ厳しい目を向けています。

日本友和会は国際友和会の支部です。平和を希求する世界の仲間と共に武力ではなく、非暴力の精神で世界平和実現の運動を推し進めましょう。高齢になり運動に参加できないから友和会を退会したいとお申し出が増えてきました。そのような方をお願いします。次の世代をになう若者たちへ、私たちの祈りと理想を伝えることの出来ますよう、ぜひ共に祈り、お支え下さい。祈りこそが日本友和会の基本です。この大切な時期を、祈りつつ、各自に備えられた道を歩みましょう。